

農研生環第 2156 号  
平成 16 年 3 月 3 日

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

病虫害発生予察注意報の発令について（送付）

このことについて、平成 15 年度病虫害発生予察注意報第 7 号を公表しましたので送付  
します。

注 意 報

平成 15 年度病虫害発生予察注意報第 7 号

平成 16 年 3 月 3 日  
熊 本 県

農作物名 カンキツ類

病虫害名 ミカンハダニ

1 発生地域 県内全域（カンキツ栽培地域）

2 発生程度 平年比 多

3 注意報発令の根拠

（1）カンキツ類では昨年 9 月頃よりミカンハダニの発生が増加していたが、本年 2 月  
の越冬数も寄生葉率 20%（3 月の過去 5 年平均 3%）（図 1）、10 葉当たりの  
寄生頭数は 6 頭（3 月の過去 5 年平均 0.7 頭）と多い傾向である。

（なお、調査は通常 3 月であるが、本年は特別に 2 月に実施した。調査場所は県下  
の農家圃場で、数値は温州 14 箇所、甘夏 12 箇所の平均値である。）

- (2) 気象予報によると3月の気温と降水量は平年並(2月27日福岡管区気象台発表)と予想されており、防除を実施しないと今後も発生量が多いまま推移すると考えられる。
- (3) 要防除水準は、雌成虫寄生葉率30～40%、10葉当たりの雌成虫数5～10頭である。今後、温度の上昇に伴いさらに増加して春先の発生が多くなると、新芽が加害され光合成機能が低下し、花芽の形成が阻害される恐れがある。

#### 4 防除対策

- (1) マシン油乳剤(97%)で防除する。また、散布にあたっては散布量を多くし樹冠に十分散布する。
- (2) マシン油乳剤は商品ごとに使用時期や希釈倍数などが異なるので、使用に際しては容器などに記載されている内容をよく読んで、記載の範囲で使用する。
- (3) マシン油乳剤はボルドー液、デランフロアブルとの混用を避ける。さらに、これらの薬剤との近接散布は落葉を助長する恐れがあるので、十分間隔をあけて散布するよう注意する。また、近年の温暖化傾向で発芽が早まって3月中に発芽が進むこともあり、発芽後にマシン油乳剤を高濃度で散布すると薬害を生じる恐れがあるので注意する。